

教科名等

校内科目名	指導要録表記上 科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
人間と社会	総合的な探究の時間	1	1年全クラス	1	必修	35 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	1学年担任
授業形態	演習(講義)および実習
教科書	東京都教育委員会「人間と社会」
使用教材等	東京都教育委員会「人間と社会」、課題研究キット Start Book(啓林館)、その他各実習等の資料

科目の目標・内容等

学習目標	各学習を通して、道徳性を養い、判断基準(価値観)を高めることで社会的現実に照らしより良い生き方を主体的に選択し行動する力を育成する。
学習における留意点	この教科は、「これから何を大切にして、どのように生き、そしてどのようにして幸せな世の中にしますか」という問いを考える教科である。
予習・復習	事前に教科書で授業内容を把握すること。また、各演習・実習後に報告書等を作成する。
評価方法	下記評価の観点参照

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	「学ぶことの意義」 「ネット時代」 「支え合う社会」 体験活動	上級学校で学ぶことの意義や大切さについて考えさせる。 ネット時代に生きるために必要な知識とネットにおけるコミュニケーション力を身につけさせる。 社会における自助・共助・公助の意義や大切さを考えさせる	(具体的内容)ガイダンス・学校生活・スコラ手帳の使い方・大学受験制度について、ネットモラルに関する学習、グループ討議、防災事前指導・防災活動・救命講習、多摩川清掃、ネットに関する安全学習、グループ討議 *上記具体的(体験)学習に対して、内容に関心を持ち、意欲的積極的に取り組んでいるか。生徒自身の自己評価、及び生徒同士の相互評価も加味する。
2	「働くことの意義」 「ネット時代」 「学ぶことの意義」	働く上での収入、人間的成長、厳しさをふまえた働くことの意義を考えさせる。 ネット時代に生きるために必要な知識とネットにおけるコミュニケーション力を身につけさせる。 上級学校で学ぶことの意義や大切さについて考えさせる	(具体的内容)弁護士に関する学習、グループ討議、ネットリテラシーに関する学習、グループ討議、地域のボランティアに関する学習、グループ討議、 *上記具体的(体験)学習に対して、内容に関心を持ち、意欲的積極的に取り組んでいるか。生徒自身の自己評価、及び生徒同士の相互評価も加味する。
3	「人生とワーク・ライフ・バランス」 「主権者としての自覚」 体験活動	18歳で選挙権が付与されることを自覚し、社会連帯・公正に対する自己の考えを深め、公共的な事柄に主体的に参画する能力を育成する。	ライフプラン・プレシート作成・ライフプラン講座に関する学習 18歳選挙権に関する学習、模擬投票、グループ討議など *上記具体的(体験)学習に対して、内容に関心を持ち、意欲的積極的に取り組んでいるか。生徒自身の自己評価、及び生徒同士の相互評価も加味する。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。